

朋友だより

東日本大震災から3ヶ月経過し、被災された方の8割近い方が、復興は進んでいないと感じているとのアンケート結果に胸をいためています。

未曾有の災害で職を失った人ばかりでなく、日本全体で「働く」ことが改めて問われる状況になっています。今回は「人間らしく働く」について考えてみました。

御参考になれば幸いです。

2011年6月

(有)コンサルタント朋友
代表取締役 奥長弘三



人間らしく働く



チンパンジーから教わる

松沢哲郎著『想像するちから - チンパンジーが教えてくれた人間の心』(岩波書店 2011年 2月)を読みました。京都大学霊長類研究所・所長を歴任された著者が長年のチンパンジーの研究を通してたどりついた「人間とは何か」を興味深く論じています。

チンパンジーと人間のゲノム(全遺伝情報のこと)の違いは、1.2%に対し、サルと人間の違いは6.5%であり、チンパンジーと人間は非常に近い存在とのことです。

チンパンジーは人間がじーっと見たら、じーっと見つめ返すが、サルの方は人間と目を合わさない等が最初に紹介されます。

子育てについてのチンパンジーと人間の違いも面白いです。チンパンジーは教えない教育、見習う学習です。口で教えるのではないし、手取り足取り教えない。模範となる行動をしてみせ、子どもはその後ろ姿を見て学びます。それに対し、人間の子育ての特徴は「教える、手を添える、認める、具体的には「うなづく」、「微笑む」、「褒める」にあるということです。

人間の教育の一つのかたちというのは、「認める」ということにある。逆に言えば、人間の子どもには「認められたい」という強い欲求がある。それがチンパンジーとの大きな違いだ。教育における「認める」という行為の重みを改めて意識している。

(同書 141 ページ)

最終章における著者のことばは人間を考える上で貴重なヒントを与えてくれます。

人間とは何か。きっと「想像する」という部分が違うのだ。「想像する」ということが人間の特徴だと思った。チンパンジーは、「今、この世界」に生きている。(中略)

今この世界に生きているから、チンパンジーは絶望しない。「自分はどうなってしまおうだろう」とは考えない。たぶん、明日のことさえ思い煩ってはいないようだ。

それに対して人間は容易に絶望してしまう。でも絶望するのと同じ能力、その未来を想像するという能力があるから、人間は希望もてる。どんな過酷な状況のなかでも希望もてる。

人間とは何か。それは想像するちから、想像するちからを駆使して、希望もてるのが人間だと思う。(同書 181~182 ページ)

絶望するのも人間だけの特徴、また逆に想像するちからを駆使して、希望もてるのが人間だという著者のメッセージは私たちに勇気を与えてくれます。

現代社会の軋み

一転して、現代日本の若者たちの苦悩に焦点を当てたのが、本田由紀著『軋む社会』(双風舎、2008年 6月)です。夢を持ってない、将来の展望が見えない、希望が見いだせない、そのような若者たちの声が聞こえます。人間の特権である将来を「想像する」能力が見るものは希望ではなく、絶望だという厳しい現実です。

同書により、現代社会の軋みのいくつかを追ってみます。

2007年時点で、15~24歳非農林雇用者の男女とも半数近くが非正社員であり、25~34歳では、男性の14%、女性の42%が非正社員です。(同書 34 ページ)

アルバイト、パートの年収の平均値は200万円未満で、自立して生計をたてていくのは困難な賃金水準です。

しかし、過酷な状況に置かれているのは使い捨ての人手である非正規雇用者だけではありません。正社員になった若者にも厳しい現実が迫ります。若い社員も労働時間の長さや割り当てられる仕事量の重さ、そして職場の人間関係の緊張に苦しまざるを得なくなります。その結果、働き過ぎて燃え尽きた正社員は職場を離脱してフリーターや無業者を選ぶといえます。(同書 111~112 ページ)

一方では逆に、いつまでも単純な繰り返しの仕事を与えられ、給料も低いままで、これから成長していけるという将来の展望を全く持てないような職場も数多くあります。(同書 243 ページ)

また新しい型の働き過ぎとして「やりがいの搾取」を指摘しています。ケアワーカー、バイク便、居酒屋チェーン店店員などに見られるもので、仕事の中に 趣味性、ゲーム性、奉仕性、サークル性、カルト性などの要素を付加することで「自己実現系ワーカホリック」をつくり出すというものです。のサークル性、カルト性とは高揚した雰囲気の中で、個々の労働者が仕事にのめり込んでいくというケースです。(同書 84-101 ページ)

同書の最後にでてくる若者へ送るメッセージには著者の暖かい心がよく出ています。長いので、抜粋して紹介します。

若い人たちへ

いまこの国には、いびつなところがこれまでよりもいっそう目立ってきているようです。その結果、生身の人間にとって、とても息苦しく、何のためかわからないままに駆り立てられるようなことがそこらじゅうでおきています。(中略)

年長者として何ができるのか

「大丈夫だよ、いいよ、やってみて、何かできることがあれば手を貸すから、伝えてほしいことがあればすべて伝えるから」

このような基本的な支持が、個々の年長者から個々の若い人へ、そして社会的な制度や仕組みとして確かに存在してはじめて、あなたたち若い人たちは、しっかりとした足取りで前に進んでくれるのではないか。

(中略)

だから、あなたがいま苦しくて、どうかあきらめてしまわないでください。あなたがいる場所に違和感が強くて、その外にはさまざまな人や場所があり、そこではあなたが自然な笑顔でいられるかもしれません。(後略)(同書 242-250 ページ)

中小企業こそ若者が働くに ふさわしい場所

現在、中小企業に対する期待が世界的に

広がっています。雇用の場としての中小企業への期待です。その世界的潮流の中で、日本でも昨年6月に中小企業憲章が閣議決定されました。「中小企業は、経済を牽引する力であり、社会の主役である」という書き出しではじまる格調高いものです。

中小企業は派手ではありません。地味が目立たない存在です。しかしそれぞれの地域で、或いは業界の中で無くてはならない存在になることを目指して必死に頑張っているのが大多数の中小企業です。

中小企業はもともと一社では何も出来ません。本質的に他者との関係の中で初めて存在が可能となります。中小企業は相手に対する思いやり、愛情、共生の精神が基本にあると言えます。

このような中小企業なら若者が存分に力を発揮する場を提供してくれるでしょう。

しかし現実のすべての中小企業がそうになっているかといわれると、残念ながらそうとは断言できません。

次の三条件が満たされる中小企業なら安心して身を任すことができます。そしてうれしいことにこのような中小企業が着実に増えてきています。

1. 経営理念が文章化されており、社内で共有されている。
2. 何としても会社を維持発展させるという経営者の姿勢が確立している。
3. 「この社長と一緒にやっぺいこう」、「この社員達と一緒に良い会社をつくっぺいこう」という労使の人的信頼関係が出来ている。

日本の中小企業憲章は生まれたばかりで、まだ十分に育っていません。憲章に魂を入れて、この日本社会が、人間が誇りを持って住み、働くにふさわしい社会に戻したいと思っています。若い皆さんの力を是非貸して下さい。



株式会社 さとう印刷社

(東京都文京区：代表取締役 佐藤 稔 氏)

東京都文京区白山で自費出版、社内報などの印刷業を営む創業58年の老舗企業です。

現社長は二代目で、社長を引き継いで24年になります。先代社長は昭和52年施行の中小企業分野調整法の成立に業界代表として尽力されました。この法律のおかげで大手企業が中小企業分野に勝手気ままに参入し、市場を食い荒らさないよう制限がかけられるようになりました。

同社の得意分野は法人企業の社内報、報告書類及び自費出版、自分史などです。印刷業は、各種産業、商品、事業に付帯して発生する宣伝、告示などの情報を加工する業です。従って常により正確に、より見栄えの良いものをつくり、お客さんが思った以上のものをつくるよう心を配ろうというのが同社の方針です。同社のホームページにある次の文章が、このような同社の姿勢を良く示しています。

「自分史」は作者の一生涯を賭けたメッセージです。自らが生きてこれたことに感謝する想いが著作に駆り立てるのでありましょから、この一冊の上梓に、印刷会社も精魂を籠めざるを得ないのです。

同社のホームページを見て、自費出版を依頼してきたある著名な経済人の話をしながら、佐藤社長は、人の出会い、共に生を分かち合う喜びを語ってくれます。

佐藤社長の夢は、「現代版文京風土記」を世に出すことです。

現代版文京風土記は文京区在住、在勤者を対象に文京に関わるとっておきの文章を募り、これをまとめ冊子として発行する事業です。この事業によって地域社会が高齢者に関心を寄せる、高める、手を差し伸べる。地域住民が地元を見つめ直し、誇りと愛着を育てる。若者にテーマの発見とその表現、母国語への関心と愛着、これらを育てる契機としたい。そして、地域の人達が縁ある地元と周囲の人々に「お陰様で」と心を通わせ、人が寄り添い、助け合う町を蘇らせたいたいものです。(2004年8月26日、第2回文京産業再生プレジウムでの発言)

文京区は名所旧跡が多く存在する情緒ある地域です。近年区内の商店街はかつての賑わいを失い、ビル、マンションに変わりつつあります。風土記出版が実現し「対話のあるまち」が復活できたらうれしいことです。

お問い合わせ：株式会社 さとう印刷社 [URL:http://www.310-pp.jp](http://www.310-pp.jp)
〒113-0001 東京都文京区白山1-19-16
TEL.03-3813-8521 FAX.03-3813-8524

* ~ あとがき ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ *

朋友だより 110号をお届けいたします。

3.11後に被災者の方々を励ますための声、癒やし、慰める歌声。「うさぎ追いしかの山・・・」という小学唱歌『ふるさと』を世界三大テノール歌手のプラシド・ドミンゴさんが4/10のコンサートの最後に被災された人々の魂に伝えたいと会場の聴衆と共に歌った場面をTVで視聴しました。自らも25年前のメキシコ大地震で、親類を亡くした経験を持ち、今回被災された方々への共感と応援歌として歌いました。「何時の日か必ず強い気持ちでいられる日が来る」と語っていました。被災地の子供達の卒業式や日本人歌手のチャリティー演奏会等の締めくくりの歌としても「如何にいます父母、恙なしや友がき・・・」と流れますと、3.11以降のあの忘れられない情景と重なって、私もいつしかともに口ずさんでいました。(野上)



朋友 有限会社 コンサルタント朋友

〒113-0034 東京都文京区湯島3-23-8 第六川田ビル201号
TEL. 03-3833-6025 (代) FAX. 03-3833-6035.

[URL:http://www.consultant-hoyu.co.jp](http://www.consultant-hoyu.co.jp)